



長岡市立刈谷田中学校

学校データ
【学級数】
9学級
【児童生徒数】
175人
【地域コーディネーターの有無】
無

「地域の特色を生かし、地域とともに歩む学校づくり」を目指した地域学

1 はじめに

当校の学区は長岡市栃尾地域に位置している。近年は過疎化が進み、地域文化の維持・継承に困難な状況にある。一方で、豊富な湧水や「栃尾のあぶらげ」、上杉謙信ゆかりの地として知られ、これらを活用した地域振興策が地域住民を中心に進められている。

当校は、地域を愛し地域に貢献できる生徒の育成を目指し、「地域住民と関わる」「地域行事に参加する」「地域の人材を活用する」ことをねらいとして下記の表のように取り組んでいる。

令和3年度 刈谷田中学校地域学習実施計画

学年	活動名	活動内容とねらい
1学年	・栃尾地域散策(5月)	・地域の施設・史跡を班で散策し、地域について興味をもつ。
2学年	・職場体験(7月・8月)	・地域の職場で働くことを通して、働く意義を学ぶ。
	・義の元服式(9月)	・上杉謙信の故事に触れ、元服式という儀式を通して、社会の一員になる意識をもつ。
3学年	・地域活性化プラン作成(通年)※発表は2月	・栃尾地域を活性化させるにはどんな方法があるかを班で話し合い、まとめ、発表する。
全学年共通	・小中合同地域貢献活動(6月)	・地域に感謝し、地域に役立つ活動を考え、奉仕活動を実施する。
	・とちお祭り民踊流し(8月)	・8月のとちお祭り民踊流しに全校生徒で参加する。
	・地域の職業人に学ぶ(通年)	・地域で働く人の話を通して、地域にある職業を知る。

緒に活動することで、生徒は地域の一員である意識と、地域に貢献する楽しさを学ぶ機会となっている。



児童生徒、地域の人と一緒に公園清掃

(2) とちお祭り民踊流し

8月第4土曜日に行われる「とちお祭り民踊流し」に全校生徒で参加している。踊りの途中で間合いをとって一斉にジャンプをしたり、掛け声を入れたりして、伝統のある踊りにアレンジを加え、祭りを盛り上げている。とちお祭りから約1週間後に行われる体育祭でも栃尾甚句保存会のお囃子に合わせて、生徒、卒業生、保護者、地域の方々が一つの輪になって踊り、地域のイベントになっている。(令和2、3年度は感染症対策のため)



栃尾甚句を踊る生徒たち

2 取組の実際

(1) 小中合同地域貢献活動

当校の学区には三つの小学校がある。小学校と合同で日頃お世話になっている地域に感謝を表すため、6月に地域の除草、ゴミ拾い、清掃等の奉仕活動を行っている。生徒たちは、事前に自分の住む地区の区長と連絡を取り、地域の要望を取り入れた活動をしている。中学生が中心になって活動を進め、大勢の地域の方

(3) 総合的な学習の時間における取組

① 1年生「栃尾地域散策」

5月に地域学習のスタートとして、栃尾地域の社会施設や自然環境に触れ、地域の誇りと課題に関心をもつため、栃尾地域散策を実施している。散策で施設の福祉環境に興味をもち、スロープや点字ブロックの設置状況をレポートにまとめた生徒もいて、多面的に地域について学習する活動になっている。



栃尾幹部交番のスロープの位置を確認

② 2年生「職場体験学習」

7月に栃尾地域を中心に25か所の事業所にて職場体験を実施している。実際に職場で働くことで、働くことの大変さや、人間関係におけるあいさつの大切さを学んでいた。地域の事業所では、丁寧に仕事の仕方を指導して下さるため、地域に貢献したいという気持ちを育む活動になっている。

また、「地域の職業人に学ぶ」をテーマに地域から外部講師を依頼して、キャリア教育を推進している。



「栃尾のあぶらげ」工場で職場体験学習

③ 3年生「栃尾地域活性化プラン発表」

2月に3年間の地域学習の集大成として栃尾地域を活性化させるにはどんな方法があるかを班で話し合い、「活性化プラン」としてまとめた。発表会当日はいくつかの班の発表に加え、栃尾支所地域振興課の職員、地域おこし協力隊員、地域の有識者を交えたパネルディスカッションも実施した。発表会を通して、生徒は文化、産業、自然環境などの多様な視点でプランを立てることが大切であることを学んでいた。



活性化プランを発表する生徒

3 成果と課題

生徒たちは「地域住民と関わる」「地域行事に参加する」「地域の人材を活用することにより、地域社会への興味をもち、主体的な活動を展開し、地域への理解を深めることができたことが成果である。

2年前に地域とともに実施していた「賽の神」を中止した。気候変動による小雪が理由としてあるが、少子高齢化による地域の人手不足も理由である。今後、持続可能な地域教育の工夫が課題である。

4 おわりに

当校では、「地域の特色を生かし地域とともに歩む学校づくり」を目指し、学校だよりやホームページで学校での生徒の様子を積極的に発信し、学校の取組を理解してもらうように努めている。

今後も地域で学んだことを地域に恩返しする学習を推進していく。生徒が地域のよさを知り、地域に貢献できるようにウィズコロナ禍でも継続できるような地域教育プログラムへの見直しを進めていく。